

3DTV 狂走曲

CMEO 事業部 田村 一雄

2010年7月号の本コラムで3D対応のブルーレイレコーダーPanasonic「DIGA BWT3000」を購入したことをお知らせした。この段階でのAVセッティング状況は、ソニーWEGA KVシリーズ32インチ（非地デジ対応）、J-COM デジタルSTB（セット・トップ・ボックス）、DIGA、VTR付HD/DVDレコーダー（非地デジ対応）というフォーメーションであり、早く3D「VIERA」を買ってビエラリンクを急ぎたいと書いた。

そして、ついにDIGAを購入した一ヵ月後に54インチ3D「VIERA」（THP54VT）とラックシアターSC-HTX700-Kを購入し、念願のビエラリンクは完成したのだが、そこから私はこいつらに振り回されることになった。

まず、購入段階で民生市販レベルの※1最高（と思われる）機器で装備したにもかかわらずある種の喪失感を味わうことになった。もちろん、地デジ番組は素晴らしいし、ハイビジョン番組はなお素晴らしい。ブルーレイにダビングしても画像は最高である。そのことに不満が言いたいのではない。

実は私はこうみえて収集癖があり、本や各種のカード類、おまけ類などが捨てられない。そして一般のDVDでもLPモードで各種の番組を録り貯めてきた。その枚数は不明だが、たぶん1,500枚以上になるはずだ。DVDの管理上、PCのエクセルにリストを作成していたので、そのくらいの数になることは間違いない。

ところが、DIGA以前、VTR付HD/DVDレコーダー（以下Vレコーダーとする）でせっせと録りはげんできたDVDの映像はボケてしまってガクンと画質が落ちるのである。画素数の少ないデジカメで撮った画像を拡大した感じなわけだ。

VTRからDVDに移行するときにも、DVDに改めて録画したタイトルについてはそれ以前に録っていたVTRのタイトルを処分していった。今度はそれをBDで行うことになる。気が遠くなりそうだ。

と、ここまで書いて、録り貯めたタイトルは観ているのか、という突っ込みが聞こえてきた。はっきり言う。観ていない。録画⇒ダビング⇒リスト作成⇒保管という一連の行為そのものが私の趣味となっている。私は毎朝 4 時に起きて約 1 時間はその日の予約録画と前日の番組の編集に従事しているのだ。まあ、老後ゆっくりみる時間もできるだろう。私がいなくなった暁には遺産として家族に残してあげよう。しかし、私の家族は誰も喜ばないであろう。すぐに捨てられる運命にあらう。極めて非生産的なことはわかっているのだが、私をそのように突き動かすのである。そして迷走が始まるのである。

まず、J-COM の STB だが、これを HDMI コードで連結する必要があった。これまでの STB はその端子がなかったためである。そのために HDMI に対応した STB に代えてもらった。確かに HDMI で連結したことで以前よりも画質は向上した。しかし、STB を通してみる番組は HD 番組であっても地デジ番組より画質は劣る。さらに録画する場合、最高画質は XP までだ。STB を通すと外部入力となるのでブルーレイ対応モードで録画できないという。そのことを J-COM に問い合わせると i-LINK 接続の環境ならば HD 画質での録画を行えるという。これまでの STB は i-LINK 対応であった。でも画質は劣っていたではないか。HDMI と i-LINK では画質的には HDMI の方が上ではないのか。にもかかわらず i-LINK 環境なら HD が録画できるということはどういうことだ。私は J-COM にそのことを問い、最高の画質と録画条件でできる方法を提案して欲しいと言った。その翌日から 3 日ほど海外出張があったので、J-COM はその後に連絡をくれるといったのだが、連絡はなかった。

一方、外部入力で HD 録画ができないのなら、直接入力なら HD 録画ができるだろうと思い、スカパーに加入することを考えた。実際、スカパー e2 に加入した。ところが、スカパー e2 で視聴可能な約 40 の番組のうち 12 番組しか視聴できない。スカパー e2 に問い合わせ B-CAS カードを出し入れすることを指示され、そのことで私の家（共同住宅の室内アンテナ端子）には CS 電波が届いていないことが判明した（J-COM の設定により BS の電波は届いていた）。私は、スカパー e2 のいくつかの番組が映っていたから私の部屋にも CS 電波は届いていると思ったから契約を申し込んだのである。ところが、よくわからないのだが、BS の電波であってもその電波は強いので CS の番組を映してしまうこともあるという。スカパー e2 を観るのであれば BS・CS110° アンテナを設置する必要があるという。

そこでまた私は考えた。どうせアンテナを設置するのであればスカパーHD にしよう。これならば、たぶん最高の映像環境が構築できるはずであると。

8月8日(日)スカパーHDに申し込み、8月14日(土)にアンテナ取り付けマンがやってきた。晴れてスカパーHDも観られることにあいなった。

ところで、3D映像なのだが、3D「VIERA」購入以降、「DIGA」購入者におまけでついてきた3Dブルーレイディスクお試し版とか「Go for Dream Ryo Ishikawa」の3DBDを試していたのだが、一向に3Dにならない。Panasonicにメールで問い合わせたら説明書に書いてある内容程度の返事しか返ってこない。細かい様子がわからないので電話で問い合わせるよう指示されたので電話したところ、エンジニアがやってくるという。そこでいろいろ調べてもらったのだが、HDMIの配線の仕方によっては3Dは映るのでそれぞれの機器に問題はないようだ。エンジニアはその場では原因が答えられないので事業部に問い合わせる、という。その日の午後、エンジニアから電話がかかってきて言うには、ラックシアターのSC-HTX700-Kが3D映像信号入力対応になっていないことが原因であるという。ヤマダ電機ではそんな説明は受けなかったし、私が3D「VIERA」とラックシアターを購入した時点ではこの組み合わせで店頭展览展示してあったのではないか。私はすかさずこの旨をヤマダ電機●●●店に電話で伝え、3D映像信号入力対応の機種に交換してもらえるよう要求を強めた。要求は通り、プラスαの費用でSC-HTX800-Kに交換してもらった。

| 日付 | 行動 | 備考 |
|----------|--|----------------|
| 6月19日(土) | DIGA BTW3000購入 | チャリで自宅に持ち帰る |
| 7月17日(土) | DIGA BTW3000セッティング | J-COMエンジニア来訪 |
| 7月18日(土) | VIERA THP54VTと シアターラックSC-HTX700-K購入 | |
| 7月24日(土) | 上記搬入 | ヤマダ電機配送・セッティング |
| 8月1日(日) | J-COM STB HDMI端子対応に切り替え | J-COMエンジニア来訪 |
| 〃 | スカパーe2に加入申し込み | |
| 8月8日(日) | スカパーHDに加入申し込み | |
| 8月14日(土) | スカパーHDアンテナセッティング | スカパーエンジニア来訪 |
| 8月16日(月) | 3D画像確認 | パナソニックエンジニア来訪 |
| | シアターラックの件でヤマダ電機にクレーム | |
| 8月21日(土) | シアターラックSC-HTX800-Kに交換 | ヤマダ電機配送・セッティング |
| 〃 | REGZA 37Z1購入 | |
| 8月23日(月) | 上記搬入 | ヤマダ電機配送・セッティング |

現在は8月末であり、「DIGA」購入からのこの間(約2ヶ月半)、機器やアンテナ設置、機種交換、修理エンジニアなどが家にやってくるたびにTVが設置してあるリビングをかたづけ掃除した。これまでの私の人生でこれほどまでの頻度で掃除をしたのは小中学生時代の掃除当番以来のことだ。

また、スカパーHDに加入したにもかかわらずスカパーe2の1ヶ月分の料金がかかっていたり、J-COMを使わなくなったにも関わらず、1ヶ月分の料金を支払わなければならない。J-COMのエンジニアの出張費用なども含めると数万円の授業料を支払うことになる。授業料を支払うことについては後悔していない。知らないことを知るには自分で努力するか、誰かに教えてもらわなければならない。そのためには対価が必要だ。私の仕事のひとつはディスプレイ関連材料の調査・マーケティングである。その取材費だと思えば高くない。そして今、こうして一連のことを文章にできた。Panasonic、ヤマダ電機、J-COM、スカパーら今回の件に関係した企業に私の声が届くことを祈って筆を置きたい。

●後日談

実はまだ迷走は終わっていない。セガレが部屋の14インチのブラウン管TVを37インチHD内臓液晶TVに代えたいという。聞けば6万円くらいだという。「ならば、オレは3万円出す、その代りヤマダのポイントとエコポイントをよこせ、機種はPanasonicにせよ」と条件を出すとセガレは乗ってきた。どちらにしても2011年7月までに買い換えなければならないのだからこの際買ってしまおう、ということで22歳になった愚息とヤマダ電機にチャリを走らせた。しかし、37インチHD内臓液晶TVで6万円なんて機種はない。10数万円はする。予算6万円だと26~32インチクラスだ。セガレは37インチにこだわった。プレステ3を迫力ある画面でやりたいからだ。その線で改めて機種選びを開始した。私の推すメーカーはまずPanasonicである。画像うんぬんよりも私はClub Panasonicのエンジョイポイントが欲しかったからだ。また、国産のIPSαパネルは魅力だった。「お部屋ジャンプLink機能」は重視しなかった。37インチでHD内臓のPanasonicの機種は確かに存在した。しかしLEDバックライトではない。東芝のREGZA Z1 37インチは外付けHDだがLEDバックライトであった。セガレは画像でREGZAに軍配を上げた。そして私は6万数千円を負担することになり、エコポイントとヤマダポイントを手に入れた。

まだ話は終わらないのである。まず、ビエラリンクのシアターラックに納まり切らない V レコーダーと J-COM の STB は REGZA とつなごう。これら一連の作業が終了するのは 9 月 4 日の予定である。また J-COM のエンジニアがやってくる。掃除が必要だ。

暑い夏だった。この一連の私の迷走が終息するのは風が秋色に変わる頃だろう。

[筆者注]

※1 上には上がある。東芝 Cell REGZA とか、高性能アンプやワイヤレスシアターを装備したものとか。

執筆者略歴：田村一雄

1989 年、(株)矢野経済研究所に入社。以来、化学・素材分野の調査研究に従事し、現在はデバイス領域まで調査領域を拡げ、CMEO 事業部の事業部長としてエレクトロニクス分野の川上から川下領域を統括。知的クラスターへのコンサルティング実績を有するほか、台北事務所所長、ソウル支社長を兼務。